

「朝鮮半島 完全非核化のゆくえ」

まだまだ予断は許さないものの、朝鮮半島の和平プロセスは今のところ順調に進みつつある。金正恩は完全な非核化を目指すと言っているが、着実に実現されるまで、手綱を緩められない。しかし、体制維持が許容されるのであれば、金正恩は完全非核化を受け入れる可能性は高い。今後順調に非核化と軍縮が進んで行くことを想定して、今後の朝鮮半島情勢を予想してみる。

南北朝鮮は朝鮮戦争の終戦協定を結び、北朝鮮の非核化と軍縮は、在韓米軍の軍縮や撤退と並行して段階的に進められる。中露との緊張も高めていたTHAAD(高度防衛ミサイルシステム)の撤去も当然行われる。検証可能な不可逆的非核化が確認された段階で、韓国、中国による本格的経済支援が北

朝鮮に対して開始される。ただこれは、金正恩一族をはじめ、北朝鮮政府の利権を強化する形で進む。金正恩は中国に倣い、一党独裁政権下での資本主義を通じた国力増進を図り、野心の先送りを行なう。金正恩一族の地位保全が第一なのだから、南北朝鮮の平和的統一の可能性は低い。彼が目指すのは北による韓国併合しかない。とはいえ、しばらくは北朝鮮の国力が充分に高まるには時間がかかるから、一時の平和を謳歌出来る。東アジア全体の緊張もかなり緩和する。

民の管理統制を強化する必要に迫られる。故に人的文化的交流は、今まで同様かなり強い制限の下に置かれる。中国は一党独裁と言えども血縁相続ではないが、北朝鮮は金一族の相続独裁かつ王政でなく朝鮮労働党独裁だから、血縁相続の合理性の説明は非常に困難で、政権の維持には非合理強権が必要だからだ。

北朝鮮政府は経済支援しか興味は無い。開城工業地区の再稼働や同様の経済特区を、韓国のみならず中国とも組んで拡大したり、電力を中心としたエネルギーインフラ投資を中心に要望し、観光産業も拡大する。金一族が巨大利権により巨万の富を蓄え、金権支配で独裁が安定し、経済発展で国民満足が高まって自信をつければ、段階的に人的文化的交流も拡大してゆく。逆説的だが、金正恩の

しかし終戦による緊張緩和で、北朝鮮がどの程度変質するかは未知数だ。経済的、人的、文化的交流が促進される事により、北朝鮮の支配体制に対する国民の不満と過去への恨みを増幅させる。北朝鮮政府は今まで以上に国

独裁が安定していれば、朝鮮半島並びに東アジアは安定する。ただ、経済発展を遂げた北朝鮮は必ずまた軍拡に舵を切る。韓国の隙を突いて制圧する野心は手放さないし、北朝鮮国内で共和国化革命でも起きない限りは韓国による併合はあり得ず、仮に北朝鮮に革命なりクーデターの成功があったとしても、韓国との平和的統一の環境が整うまで、少なくとも数十年の時間が必要だ。また民族分断問題は、国交正常化による人的交流の自由化で民間の情念は解消され、国家統一を望む人は大勢とはならない。紙面の制約で予想を断定調で書いた事に御留意願う。

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>
皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net